

平成30年度西総合支援学校 学校評価実施報告書（前期）

1. 「確かな学力」の育成に向けて

重点目標

児童生徒が継続的にキャリアアップすることを目指し、個別の包括支援プランによる支援を行い、児童生徒の「生きる力（生活の質を高める力）」を育む

① 前期の取組について

- ・今年度より「できますシート」をⅠ，Ⅱ，Ⅲと3枚のシートに変更した。各学部で一人の子どもにつき3回以上の授業研究会（できます授業研究会）を実施しており、今後も実施予定である。できますシート活用により導き出された子どもの「できる」を、教職員で共有し、次の取組に生かしていきたい。また個別の包括支援プランの作成や更新に役立てていきたい。
- ・参観日の保護者アンケートでも、概ね「授業のねらいは明確である」、「適切な支援が行われている」という評価をいただいている。
- ・交流及び共同学習を通して、3つの場を超える教育の取組の一つである、「学校種を超える」について、引き続き検証していきたい。小学部の小学校教員と連携した居住地校交流、中学部の居住地校ユニット、高等部の出身中学校を訪問しての交流等、取組を進めている。

②自己評価

【分析（成果と課題）】

- ・「できます授業研究会」を通して、子どもの「できる」姿が明確になり、より適切な支援・手だてが行われるようになり、授業改善が図られている。これまで以上に、指導者が子どものできることに目を向けて授業が行われるようになってきた。
- ・各学部において、ケース会議やユニット担当者会議が充実してきている。
- ・芸術活動や創作的な活動に取り組むユニットが各学部で設定されており、さまざまな場面で創作活動に取り組んでいる。昨年度から、「アトリエ西総合」という授業を行っており、外部講師を招いて、抽出児童生徒への絵画・造形に関する授業を実施している。

【分析を踏まえた取組の改善】

- ・できますシートを活用した「できます授業研究会」を重ねることで、授業改善が図られ、子どもの「できる」を活かした「質の高い授業」ができるようになってきている。さらに授業改善を図り、子どもの「できる」を育てていきたい。
- ・小学部の児童が、「パラリンアート」という障害者アートの世界大会で大きな賞を受賞した。また児童生徒の作品を校内のギャラリーに展示することで、子どもも教職員も関心・意欲が高まってきている。児童生徒のさらなる創作意欲や自己肯定感を育成していきたい。
- ・交流及び共同学習の取組の成果と課題を整理し、研究発表会で報告する。

③学校関係者評価（第1回および第2回学校運営協議会）

授業見学の後、本校の授業や子どもたちの様子についてさまざまなご意見をいただいた。

- ・子どもたちが生き生きと笑顔で楽しんで活動する様子が印象に残った。
- ・学校全体が落ち着いている。卒業後を見据えて施設や事業所と連携する必要性を感じた。
- ・先生の表情が少し硬い。一生懸命に授業をされている意欲は十分に伝わってきた。
- ・見通しがもてるように、タイムタイマーやスケジュール等の視覚支援がされていて子どもが落ち着いている。
- ・今年度高等部に入学したが、地域の方から、表情が明るくなって生き生きとしていると褒められた。友達の話をよくするようになった。
- ・働き方改革を推進して、先生方が疲弊しないようにすることも大切だが、一方で先生方の働きたいという意欲を減退させないようあにしてほしい。

2. 「豊かな心」の育成に向けて

重点目標

学校や地域の中でできる成功体験を積み重ねることにより、自己の将来に夢や希望を持ち、自らの人生を切り拓こうとする力を育てる

①前期の取組について

- ・始業式、終業式や全校集会において、学校長が、「あそべ（挨拶、掃除、勉強）」の励行について、全校児童に話をしている。
- ・毎朝、生徒会の生徒が積極的に各学部の児童生徒に挨拶するなど、生徒会による挨拶励行は毎日実施されている。
- ・今年度も緑のカーテンに取り組んだ。
- ・春と秋に実施される桂坂統一クリーンデーの呼応清掃活動として、児童生徒による清掃、教職員による清掃に取り組んでいる。
- ・各学部の授業において、「お掃除ユニット」、「洗濯ユニット」、「リサイクルユニット」等を編成し、環境・衛生にかかわる内容の学習に取り組んでいる。
- ・高等部のユニットが、グランドの芝生手入れに取り組んでいる。

②自己評価

【分析（成果と課題）】

- ・自分なりの方法で、自分から挨拶できる児童生徒が増えている。
- ・言語聴覚士や情報教育専門家と連携し、構音指導、言葉の学習や ICT 機器を活用したコミュニケーション指導について充実が図られている。
- ・性教育の実施について、さまざまな場面で相談され、「生と性に関する授業」を行なっている。授業を公開し、事後研究会をもち、指導内容や支援について協議を深めている。
- ・緑のカーテンの取組では、今年度も、高等部生徒が役割を分担し、水やり等自主的に取り組むことができた。
- ・冬芝のオーバーシードにおいては、高等部のワークスタディの生徒全員が「働く」学習として取り組んでいる。

【分析を踏まえた取組の改善】

- ・挨拶の励行は、言語指導・コミュニケーション指導と平行して、言語聴覚士とも連携し、積極的に推進していく。
- ・「できます授業研究会」において、言語聴覚士や情報教育専門家の意見や助言も取り入れる等、専門的な視点を踏まて、対人関係やコミュニケーション指導の充実を図る。
- ・性教育については、性教育に関する各学部・学年ごとの年間指導計画を作成し、さらに充実を図る。

③学校関係者評価 （第1回および第2回学校運営協議会）

- ・学校へ訪問するたび、大きな声で気持ちよく挨拶してくれる児童生徒が多い。
- ・玄関先や廊下がいつもきれいで感心している。授業参観でも、中学部の生徒が熱心に窓や廊下の清掃をしていた。自分たちの学校を大切にしていることが伝わってくる。

3. 「健やかな体」の育成に向けて

重点目標

自分の体と心に気づき、環境とのかかわりの中で、より健康で安全な生活を送ろうとする意欲と技能を育てる

①前期の取組について

- ・医療的ケア検討委員会を随時、開催し、学校医や主治医の意見を参考にしながら、児童生徒の健康・安全管理に努めている。今年度から記録の取り方についても研修し、試行的に実施している。
- ・スクールバス乗務員を対象に、障害理解などの研修を実施。
- ・京都市リハビリテーションセンターより、毎月1回、PT（理学療法士）・OT（作業療法士）に來校していただき、身体の学習に関する助言をいただいている。
- ・訓練等実施状況
避難訓練 2回／年、
緊急時シミュレーション 3回／年
交通安全教室 1回／年

②自己評価

【分析（成果と課題）】

- ・健康観察や体力向上を図る取組などについては、確実に実施し、情報共有を図れている。
- ・毎朝、生徒会の生徒が登校してくる児童生徒の手にアルコール消毒を行う「消毒運動」に取り組んでいる。
- ・感染予防教室については、今年度はまだ利用する児童生徒はいない。
- ・今年度も、高等部のスポーツ部の取組や各スポーツ大会への参加状況も良好であり、活発な活動ができています。
- ・PT・OT等の外部専門家の活用については、支援部を中心に各学部と連携し取り組むことができています。
- ・災害時や緊急時の対応について、緊急時対応マニュアルを作成し教職員の共通理解を図っている。

【分析を踏まえた取組の改善】

- ・基本的生活習慣の確立については、生徒指導とも連携し、保護者理解を得ながら取り組んでいく。
- ・登校時の消毒運動については、感染症の流行に関係なく、年間を通して毎日実施する。
- ・感染予防教室については、校区や校内の感染症の流行に合わせ、必要に応じて随時、開設していきたい。
- ・トイレ介助が必要な児童生徒について、教職員の身体への負担だけでなく、児童生徒の行動特性を踏まえ、二人体制で行なえるよう指導体制を整える。
- ・児童生徒の運動時間の確保、健康の維持増進に引き続き取り組む。
- ・安全、防災、緊急時対応について、管理職の役割を明確にし、再確認を行う。また、若年教員への研修を充実させる。今年度は新たに土砂災害を想定した避難訓練を実施する。

③学校関係者評価（第1回および第2回学校運営協議会）

- ・学校運営協議会で、下記のようなご意見をいただいた。
- ・災害時、総合支援学校は福祉的な対応ができる場として期待される。
- ・ハード面を整えるだけでなく、人の心を含めたソフト面が整ってこそ、非常時の役に立つ。
- ・PTAが中心となって、防災の備蓄や個人用の非常持ち出し袋の取組を進めていきたい。

4. 学校独自の取組

重点目標

地域や保護者との連携を深め、学校と地域の双方向の援助による新たな「地域」の創造を図るとともに、地域の障害のある児童生徒、保護者、教員のキャリアアップを支援する「育」支援センターを機能させる

①前期の取組について

- ・学校運営協議会の基本方針を「学校から地域へ、地域から学校へ 一方向の援助による新たな「地域」の創造」と設定し、「市民ぐるみ・地域ぐるみの学校づくりを推進する」「地域と協働・連携し、子どもたちのキャリアアップを支援する」「障害のある子どもの『学び』と『育ち』を支える地域づくりを推進する」の3点をねらいとして、学校運営協議会での検討内容が学校支援活動に繋がるよう取組を進めている。
- ・わくわくクラブは、近年は放課後 等デイサービスの充実などもあり、「障害のある子どもが、居住地域で放課後を安全に安心して活動できる場を確保する」という当初の目的をおおむね達成できたとして、わくわくクラブとしての活動は今年度を持って終了し、記念の植樹祭を行った。今後も子どもが豊かに暮らせる「新たな地域の創造」に向けた取組を積極的に推進する。
- ・これまでに、にこにこクラブを8回と、子育て支援窓口「西の風」を2回実施した。
- ・サマースクールは、7月19日、20日、7月23日の3日間実施した。
- ・芝生まつりは10月27日（土）、校区地域交流会は10月12日（金）に実施した。
- ・校区の小・中学校を会場として、言語聴覚士等外部専門家による公開研修会を4回実施する。

②自己評価

【分析（成果と課題）】

地域との双方向の援助及び協働により、それぞれの人が自分の役割に応じて学校運営に参画するコミュニティ・スクールを目指し、学校運営協議会において「学校評価・管理プロジェクト」、「キャリアアップ支援プロジェクト」、「地域とともにプロジェクト」の3事業を展開している。

- ① 学校評価・管理プロジェクト … 学校に対する地域からのニーズを踏まえた教育活動や地域と連携した実践事業について計画、実行、検証。
- ② キャリアアップ支援プロジェクト … 子どもの「できる」を活かす教育の推進と、地域での生活を豊かにするための学習展開の支援。
- ③ 地域とともにプロジェクト … 障害のある児童生徒にとっての身近な生活の場単位での「学びと育みの場づくり」をめざす地域活動を推進。

【分析を踏まえた取組の改善】

- ・地域の方への障害のある子どものことや総合支援学校の取組を発信することについては、「にこにこクラブ」、「サマースクール」、「芝生まつり」、「子育て支援窓口 西の風」、「校区地域交流会」などの取組の充実や新たな取組について、学校運営協議会において熟議を深める。
- ・公開研修会やタブレット型端末を使った直接支援など、外部専門家を活用することにより、センター機能の充実を図る。

③学校関係者評価 （第1回および第2回学校運営協議会）

- ・13年間にわたる「わくわくクラブ」の活動を終了した。障害のある子どもたちが、自分らしさを発揮し、地域に生きる一人の生活者として、家庭や地域でより豊かな毎日を過ごすことのできる「新たな地域の創造」に向け、多くの示唆をもらった。
- ・「芝生まつり」「校区地域交流会」の成果については次回学校運営協議会で協議する。